

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL1492

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人 千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野 6243・東京 43341
電話 上田 1215(代表) 1218(直通)

専門大学をつくろう

“たこ足大学”の再検討を

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

玉子焼に焼魚、100円の駅弁はどこのも同じだ。定食だからだ。それよりもア・ラ・カルトにうまいものがある。いつか「週刊朝日」にのった“駅弁談義”はこのごろの日本の大学の姿をほうふつさせて、苦笑を禁じえなかった。駅弁を売る町に必ず大学あり。この言葉の裏には新制大学の変わりばえのしないお粗末さが風刺されている。日本の大学の数は官公私立合わせて260、学部には689、世界一数が多い。毎年14万人の卒業生がでる。これらがあらゆる意味でみな画一的だ。しかも内容は貧弱、日本の大学は今や世界最低のレベルにあえいでいる。

駅弁の進歩をはばんでいるものは、値段が安い方に均一主義をとっているからだという。上中下があった方がよいし、同じ値段でももっと特色がだせないものか、一度食べたら、もう一度そこへゆきたいと思うような駅弁が。日本の教育が世界に例のないほど大衆にゆき渡っているとしても、明治以来の画一主義のために高等教育の段階においてさえ特徴がない。平均的な水準は高いとしても、そこからははずばぬけた人材は生れない。旧制大学がかかえているドイツ流の学問の体系や分類を新制大学が無批判にサル真似をしている。ここに悲劇の出発がある。山梨大学初代の安達禎学長じゃないが、デパートの東大や京大のまねをすれば荒物屋になってしまふ。地方大学は専門店でゆくべきだ。

科学技術の変革の激しい今の時代に、大学教育のありかたとして要望されていることは、学生は小手先の技術の習得よりは、社会にでてから頭の倉庫の中に貯えた基礎的な知識を十二分に活用して、どんな事態にも対処しうる弾力性をもたせることで、これは大学の学科が細分化されるほど、また大学卒の技術者が不足するほど強くかつ応急的な要求となっている。

産業界の目前の要求である一般技術者養成の観点に立つ限り、この考え方は正しい。しかし、これだけでは大学を戦時中の計画造船のように型にはまった単一色に塗りつぶす危険はないだろうか。

一つの考え方として、もっとレベルの高いものの必要性を論じてみたい。科学技術のいっそう高度の進展のために、激しい国際競争に負けないためにも、専門の面で高い段階にある学者技術者の養成が必要だと思う。外国の学問の模倣(もほう)や技術の導入がいつまでも続いてよいわけではないむしろ積極的にこれらの海外輸出が企てられねばならぬ。こういう目的と使命をもった大学が必要で、中心的な大学を選んで重点的に任務を果させる。大学院は高度の学問研究の場として、この要望にそうものといわれる。しかし大学院も長い習慣である分化セクト主義を解消しないとその機能を現代の産業構造に見合わせる総合的な寄与は大きく期待できない。

全体が一つの目標に集中して進んでゆくような、まとまった機構をもつ大学が欲しい。目標は特定の学問の分野においても、産業の種別においてもよい、あるいは地域の特殊性に結びつけてもよい。学科や講座の構成、研究の体制、教育の方法、予算、施設、あらゆる面を意識的計画的に目標達成の過程の中に全体を一本にしてアレンジする。仮に専門大学と呼ぼう。こういう大学が260もある中に、少しはあってもよいはずだ。いやあるべきだ。しかし専門大学を促成栽培的な、次元の低いスケールの小さい専科大学と混同してはいけない。また目標集中といっても、専門教育だけに重点がおかれるわけではなく、ピラミッドの底辺にあたる一般教育や基礎教育は、かえっていっそう力が注がなければならない。もっとも戒心せねばならぬことは、スケールの小さい人間を作らないことだ。したがって就学年限の延長も問題になろう。

この意味からいって、使命や伝統の異なる学部を機械的に結びつけた戦後の「たこの足大学」の制度は全面的に再検討されねばならないし、単純化の方向をたどりすぎた日本の大学は、社会的な重要性の増大した今日においては、複雑化多様化のまがりかどにきていることを反省せねばならないと思う。(昭和38年1月11日 朝日新聞名古屋本社全国版所載)

昭和38年度入学志願者募集

信州大学繊維学部では次の要領で昭和38年度入学志願者を募集する。

1. 募集人員

繊維農学科約30名。紡織工学科約50名。繊維工業化学学科約45名。繊維機械学科約50名。繊維化学工学科約40名。
(註) 繊維化学工学科は昭和38年度から新たに設置されるので(見込)、繊維化学工学科を志望する者は、入学願書に志望学科を記入するとき必ず繊維工業化学(化学工学)科と記入すること。

2. 出願期日

昭和38年2月11日(月)から昭和38年2月20日(水)まで

3. 入学試験期日および時間割

3月23日(土)	9.00時から12時まで3時間	理科
	13.00時から14時まで1時間	国語
	14.30時から15.30時まで1時間	社会
3月24日(日)	9.00時から12.00時まで3時間	数学
	13.00時から15.00時まで2時間	英語

4. 試験場

上田 信州大学繊維学部(上田市常入)
東京 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚町35)
名古屋 名古屋大学経済学部(名古屋市中千種区不老町)
大阪 大阪大学分校(教養部)大阪府豊中市柴原32
阪急電車石橋駅下徒歩15分

粗糸の巻取りに関する研究

信州大学教授 一 志 淑 夫

本研究は緒言、本文6章および総括よりなっている。緒言は本研究の目的が従来あまり研究されていなかった粗紡の巻取り工程を解明することにあることを述べ、過去の文献を挙げてその実験的な検討が不十分であること、および理論的解明はほとんど行なわれてないことを指摘し、本研究を行なうにいたった経緯を述べた。

第1章「粗糸の巻取りに関する理論」は粗糸の巻取りに必要な条件を挙げ、現存の巻取り機構について理論的な検討を加え、実際の機構と条件とを対比させ、実際の機構には数多くの問題があることを指摘し、究明の方向づけをした。

第2章「粗糸の巻取りに関する測定法」は従来間接的かあるいはまったく手がけられていなかった巻取りに関する諸量の測定法を確立したもので、まず変速回転数を拡大して記録する方法を確立した後巻取りに重要な因子の1つとしてのポビンとフライヤーの相対回転数の測定法を確立しさらに他の因子としての巻取り中のしの巻径の測定法を光学的と電気的な2方法によって確立し、またこれらに関係し、巻取りの1目安と考えられる粗糸の巻取り張力の測定法を確立して、さらにこれら各因子を巻取り中同時に測定できる装置に一体化し、各因子の関係をはっきり把握できることを明らかにした。

第3章「粗糸の巻取りにおけるコーンドラムの研究」はまず従来のコーンドラムを検討し、直線比型のコーンドラムを組合せて資料をえた上で、修正型のコーンドラムを試作し、満足すべき結果をえた。ついでコーンドラムをとりかえずに任意に異なったコーンドラムを用いると同じ効果をうる装置を考案試作し、この機構を解析しさらにこの装置の機械的效果の面について、根本的な検討を行ない、実験によってえた結果と作図によるそれとがよく一致することをたしかめた。また粗糸の巻きはじめ位置による影響を除きうる装置を考案試作し十分効果があることをたしかめた。

第4章「粗糸の巻取りにおけるフライヤーの研究」はまずフライヤーの役割を理論的に検討し、プレスサの加圧はプレスサの重心位置の偏心によって生じることを述べ、プレスサの巻取り加圧力をみちびき、両者をはっきり区別した。さらにプレスサの加圧力は増加、減少、一定の3種の型に、またそのこ配も任意に変えうることを指摘し、各種フライヤーについて諸量を実測して、プレスサの加圧力としの巻径の関係

を求め、検討した。ついでプレスサの加圧力を測定する方法を確立し、その測定値と静的な計算値とを対比して、そのちがいを検討した。さらにしの巻のかたさに関するプレスサの巻取り加圧力についてくわしく解析し、実験的に検討してプレスサの加圧力、粗糸の巻きつき張力、パドルとしの巻の間の動摩擦係数の影響を明らかにし、おわりにしの巻のかたさを測定する方法を確立した。

第5章「粗糸の巻取りにおける粗糸切れ停止装置の研究」は粗糸が切れた場合の停止装置を、巻取り中は積極的に粗糸切れを少なくし、万一粗糸が切れた場合作動して停止する工夫で試作し、十分その効果をたしかめた。

第6章「粗糸の巻取りに関する実験」は以上の研究によってえた測定方法、巻取りに関する装置を十分駆使して、粗糸の巻取りに考えられる要因を変えて、実際に巻取りを行ない、巻取り中、巻取り後の諸量を測定することによって、粗糸の巻取りの本質を実験的に究明したもので、はじめは巻取りに影響を与える因子と巻取りに影響される因子とに分けこれらを組合せた実験のやり方、条件などを述べ、測定用フライヤーについて検討した。

ついでプレスサの加圧力の大きさおよび型を変えることによって、粗糸のプレスサへの巻きつき数1巻では相当影響があらわれることを、またフライヤー頭部とプレスサでの粗糸の巻きつき数による影響を検討し、いずれも粗糸の巻きつき張力に影響を与えることを、さらに粗糸の仮より数とスピンドルの前後列による影響を検討し、単位長当りの仮より数を前後列同じくすればよいことを明らかにした。ポビンとフライヤーの相対回転数を変えて検討した結果、この影響は巻きはじめにきくことを、さらにスピンドルの回転数が高速になると、巻取り張力小さく、粗糸重量重目に、しの巻のかたくなる傾向を明らかにした。ポビンレールの昇降による層内の影響を検討し、スイングモーションによる不正回転およびしの巻径の変動を指摘し、粗糸重量はこれらの積に影響されることを明らかにした。おわりに総合的な考案を加え、粗糸の巻取りには巻取りドラフト、プレスサの巻取り加圧力がともに大きな影響を与えることを明らかにした。

最後に総括を付し、39項にわたって本研究全体を要約し、その特徴を明らかにした。

(本文は一志教授の学位論文の要約である。)



信州鹿教湯温泉

日観連会員 文珠荘
交通公社協定

TEL (西内) 35

テレビとステレオ

岩城屋ラジオ店

上田市横町 TEL 981

針塚先生追想録と鈴木教吾氏

倉 沢 美 徳

針塚先生伝記と追想記は、実に立派な出来栄であったと思う。委員の一員である私が、このような自画自賛をするのはおかしい話だが、実は、この仕事の大半は、鈴木さんの手によって成ったものであるから、私も敢えてこう言うことが出来るのである。

元来、伝記の編輯などと云うことは、誰にでも出来る仕事ではないと思う。第一にその主人公の真実な姿を悉く知らなければならぬし、それに文筆の才能もあり、勝れた編輯経験・技術をもち、之に加えて創作意欲に十二分の情熱を傾け得られる人でなくてはならない。今回の場合、こんな条件を具備した人が、同窓中、鈴木さんをおいて他にそう沢山あるであろうか。実に最も選ばれた人を得たと云うべきである。

鈴木さんがこの仕事に傾倒し始めて完成を見るまでの長期間、その鏝骨彫心の精進ぶりを、デット此の眼で見つめて来たから、多少の不満を洩らす人々のために、いささか義憤を感じ、この鈴木さんの努力の跡を報告する義務があると信じたので筆を執った。

鈴木さんは周知の如く身体がお弱い。その弱い身体をもって70日と云う長い期間、大体千曲会館に籠城し、一心不乱にこの仕事に打ちこまれた。生憎、当時の千曲会館には留守番がいなかった。ひと気のないうすらい会館に仮寓し、真冬の寒い朝まだき、コンロを戸外に持ち出して、パタパタとウチワを使って火をおこし、それを炬燵に入れてからくも暖をとる。食事は遠い東の端にある学生寮まで出かけなければならぬ。学生食のことだから、その質も思い知ることが出来る。もともと消化器系統の疾患に病まれただけに、さすがにぐっと胸にくる事がしばしばであったと思う。

松尾、白井両氏が心配して、外から摂るように励めても、経費の節約を慮んばかりで、決して多くを望まず、この粗食に堪えた姿には、むかしがむかしだけに、頭の下がる思い

であった。

追想記編輯にしてからが、百編以上の草稿に全部悉く眼をとおし、テニヲハを新仮名づかいに直しり、漢字を訂正するだけでも容易な業ではない。鈴木さんを最も苦しめたのは、最初予告したルールを守ってくれない執筆者の多かった事である。原稿を普通用紙に長々と書き流し予定頁をはるかに突破する。之を予定数にコンデンスし、一こま一こま原稿用紙に埋め、之と同時に執筆者に諒解を求める。又、古い昔の思い出であるから無理もないが、同じ事態に対し甲乙所見を異にしたり、日時の記録が異なったりすると、之を巨細に検討し己れが是と信ずる所まで糺明し、確信を得て、修正する。そのために、足を運んで他人の門を叩いたことは何度であったかわからない。

先生の伝記については、尚一層慎重を極め古い材料を渉猟して之を仕分けし、幾度か群馬の先生のお宅を訪れ、又は先生の知人を求めて先生の生活記録を探索する等其の心労は筆には及ぶがたいものがあつた。

此等材料の蒐集にあたって、松尾さんの演じた役柄も確かに大きいし、鈴木さんの身辺雑事に腰かく気を配った会館の白井、小山両氏の好意も鈴木さんの支えになった事も確かである。

以上は鈴木さんの払われた労苦の単なる一端に過ぎないが、之に対し、林さんは「献本式に出席して」と題して会報127号に「委員殊に編輯委員と連絡委員の並々ならぬ努力によって見事に完成したので」と書かれているが、之では委員たる私等は、鈴木さんに対し如何にもおもはゆいような気もするし、又蒲生委員長が千曲会総会で追想録刊行に関する報告に於いて、之が出来上る迄の過程の内容と、鈴木さんの労苦を簡う辞がいささか薄きに過ぎた感じがしたので、貴重な紙面を割いて頂き、あらためて鈴木さんに感謝の意を表するため筆を執った次第である。

上 田 織 維 科 学 振 興 会

(1)研究助成金交付希望者募集

50周年記念事業として発足した上田繊維科学振興会は研究助成金交付希望者を同会則第4条第1項によって次のとおり募集する。

1、応募者は千曲会の正会員および賛助員（信州大学繊維学部教職員）又はこれらを中核とする団体とする。

2、応募者は個人または共同研究としある程度の成果を得ているものとする。

3、応募者は4月15日までに本振興会理事長あて研究課題、目的、計画概要、研究経費を提出する。

4、研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する。

5、研究助成金は5月末までに交付する。

6、研究の助成をうけたものは助成金の交付決定してから1年を経過し6ヶ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。

7、助成金成果の概要は千曲会報誌上に公表する。

8、(3)の研究計画概要様式は本会あて申し込めば送付する特に学部外の若い層の研究者もさかんに応募されたい。

(2)振興会賞候補者推薦依頼

本会事業である繊維科学振興会賞候補者を募集する。奮って候補者をご推薦下さい。

推薦期限5月20日までに千曲会理事長あて提出すること。

上田繊維科学振興会研究表彰規定（抜萃）

(2)本会に繊維科学振興会賞を設ける。

(3)繊維科学振興会賞は、繊維科学およびこれに関連した科学の分野において顕著な功績のあったものに授与する。

(4)前項の業績は発表された論文著書または発明考案とする。

(6)受賞決定者には賞状および賞金を贈る。

(7)受賞候補者は繊維学部長または千曲会理事長より推薦されたものとする。

(8)受賞者の選考は受賞選考委員会において行なう。

(推薦書様式) 上田繊維科学振興会賞推薦書

候補者氏名	(勤務職名等も)
推薦者氏名	(支会名も)
業績と推薦理由(候補者の略歴参考論文概要等足りなければ別紙に記入して下さい)	

サ ロ ン

石倉先生の喜寿の祝い

門弟鈴木教吾氏ら20数名が列席

母校紡績科産みの親石倉新十郎先生の喜寿を祝う会が、師走9日午後1時から東京豊島園ホテル別館で盛大に催された。定刻先生は壮者を凌ぐ元気なお姿で、順子夫人に伴なわれて、会場に到着され、控室で少憩ののち、祝賀の宴にのぞまれた。宴は鈴木教吾氏の司会のもとに、まず浜香三氏が開会の挨拶とこの会合を持



つまでの経過を報告するとともに、門弟有志を代表して、先生に祝品を贈呈した。次で唐木田藤五郎氏および野口新太郎氏がそれぞれユーモラスな祝辞をのべ、これに対し先生が、数々の記念祝賀品を頂戴しその上過分の祝詞に接しかえって恐縮の至りである。厚き御温情に感激して夫婦兩人とも歓喜の涙にくれる次第であるとの謝辞をのべられ、巢山喜吉氏が杯を挙げ、一同これに和して、先生の益々ご健康を祈念して会食を始めた。その間参集者のほとんどが久方振りの対面であるので、それぞれ自己紹介を兼ねて思い出を語り祝辞となし、10年後にも必ずこのような会合を持つようにしようと言語合った。各位の発言内容は、記念出版する回想録に掲載することになっているのでここでは省略させていただく、最後に小林尚一氏の音頭で校歌を合唱し、佐藤一

氏の発声で万歳を三唱して一応会を閉じることにしたが、皆の希望もあり奥様をお願いして、先生の地方で順子夫人が仕舞を舞れ、門弟代表として野口、巢山両氏が先生ご夫妻をお宅までお送りして散会した。

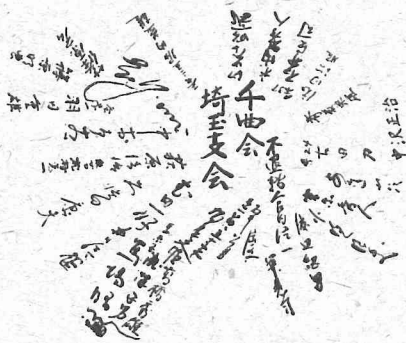
因みに当日の列席者は次のようである。

浅治袈裟男、井上彰久、飯田儀作、北原基、木曾信雄、小林尚一、巢山喜吉、鈴木教吾、内藤邦雄、永井千治、三宅玉留、佐藤一、根岸只吉、野口新太郎、宮本静雄、門田勇、吉田義夫、山本七郎、高橋英、杉田博、西田勇三郎、唐木田藤五郎、出浦長、浜香三、他に書面参加者小林啓介、大塚重蔵、江野村一雄、碓氷茂、

また、広瀬広氏および菅尾源治氏からご丁寧な祝電が寄せられた記してご厚志を深謝する。(浜記)

千曲会埼玉支会総会記

暮も押し迫る12月2日埼玉支会の37年度2回目の総会を大宮清水園にて開催した。埼玉支会は会員約100名であるが、勤務と住居とが東京方面とからんでいる



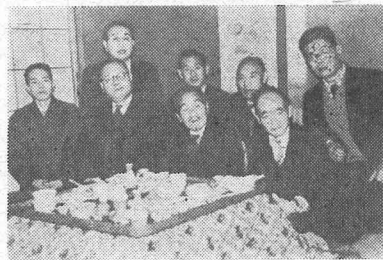
ことと移動が激しい為に正確な会員把握が困難であり、又毎度の総会で出席率も余り芳しくなかったが、今回は開催通知100通の中、回答の有った数が65通に達し、出席者も32名とこれ又従来にない好

成績で開催された。参集者中特に目立った存在は糸第1回の有賀文雄氏(片倉ハドソン社長)と糸11回合田信一氏(前片倉工業社長)の二大先輩であった。両氏の特別挨拶を拝聴した後、学校当局の荻原先生より母校復興に関する特別協力要請の御挨拶があり、一同和気あいあいの中に歓談し、議論し、或は友と昔を偲びつつ最後に校歌を合唱し、再会を約して有意義の中に散会した。

尚、当総会に於いて母校復興の拠出金も各位の絶大な御協力により多大の成果を収めることが出来た。(古田記)

古谷先生をかこみて

新年1月16日古谷先生をお招きして夕食会を大門町ささやで催した。古谷先生は繊維化学科の生みの親、育ての親としてつくされた先生である。昭和15年繊維化学科が新設され早くも23年、卒業生の数も1,000名に達せんとし化学工業界の要望に応じて益々発展の道をたどっている。



先生は本年79才になられたが、ますますお元気で、太いすじがねの入った先生足もとは少し弱くなられたが、まことに元気、われわれも心強い限りである。

創立当時からの方々、それに羽島、小林両先生も御参加を頂き厚く御礼申し上げます。先生の永く御健在にて若い後進を御指導下さることを祈ってやまぬ。

(会田記)

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤第一ビル四階
東京(591)-0764・0765

弁理士 浜 香 三
弁護士 中 猪 之 助

信 州 別 所 温 泉

(上田駅下車 電車 又はバス30分)

日観連会員
交通公社指定
国鉄推薦

和 泉 屋

TEL (塩田局) 30・102

茨城支会総会記

茨城支会の特色は、同窓相互の発展を目標として、なごやかな中にも堅実な歩みを辿っていることである。現在会員50名程度の小支会であるが、悠々自適の大先輩5～6名を除く外は、いづれも母校の伝統をしっかりと身につけ、第1線に熱と若さを以って活躍していることである。特に針塚先生が文部省督学官当時の御威光が深く滲透した、たまもので、現に教職員にあるもの15名に達し、しかも前沢康雄、加藤省三、竹内博雄の三君が高校々長として愈々円熟し、母校の名誉



のために、万丈の気を吐いて居り、またこれに続くもの多士済々で、当支会自慢の一つである。官庁方面は環境に恵まれなかったが、船後が独力浸入して以来、其の後は常に3～4名の同窓が母校の面目を保って来た。現在も小壮気鋭の同窓3名が頑張っており、将来の夢が大きい。特筆したいのは、本県の製糸界技術陣の大部分を同窓で掌握していることである。須藤製糸KKの竹内正司工場長、神栄生糸KKの村上義美工務課長を先頭に同窓一丸となって歩を進めている。

遺憾と云うか、哀悼に堪えないのは神栄生糸KKの原料主任として、益々敏腕を振い、将来を嘱目されていた神岡康夫君の事故による突然の死去である。茲に謹んで御冥福を祈る次第です。異色としては回転族の製作に打込み、上田イズムのフットに燃える、片倉工業取手所長の降旗孝君外日立製作所、茨城大学等

にも夫々活躍されている会員がいることは心強い。

唯淋しく思うことは、何処も同じとはいえ、総会に出席されるのは、いつも同じ顔ぶれで15名位である。我々がお顔を見たいのは大先輩の方や、若い層の方であるところが、之等の方の出席が少いのは母校の発展上如何なものであろう。

総会は毎年水戸市で開いていたが、時には変った処でとの申合せで今回は県西糸の都、古河市で開くことにした。集るもの13名、懇談や雑談、上田の思い出話等に花が咲き、つくる処なく夕刻盛會裡に幕を閉じることにした。

時は昭和37年12月2日 (船後記)

倉沢美徳先生の古稀祝

倉沢先生が母校信州大学繊維学部教授を退官されたのは、昭和33年春であるから、あれからもう5年になるが、その間



お宅にあって、ときどき高血圧などで体の不調をうったえられながらも、ご家庭の事、母校や千曲会の事、また社会的の問題にも我を無にして尽してこられたことは誠に感謝と敬服にたえない。こうして昨秋10月23日満70才になられた。

そこで地元2、3人のものが発起人となって先生の御長寿と弥栄を祝し、過去にいろいろとお世話をうけたことに対する謝意を表し、併せて長く病床についておられる奥様へのお慰めの志も含めて、正月3日をぼくして、別所温泉柏屋別荘で「古稀祝賀会」を催した。

先生はおおよそ30年間母校にお勤めになったか、その間研究室で温情に浴したもののたちをはじめ、就職のこと、結婚その他一身上のことなどで親身も及ばないお世話を受けたものは数えきれない程多いと思われるが、このものたちの中で、せめて地元上田にいるものだけにでも集まってもらうつもりでお知らせをしたところ、これらの人々の他に、これを聞き及んで馳せ参じたものもあり、かなり賑やかでなごやかな「祝賀会」となり、ささやかな記念品を呈上したのであったが、先生も久し振りに有難く、うれしい会であったと感激して下さった。当日の参加者は29名でよせがきの通りである。

(T・M・Y)

北佐久支会総会

11月17日本部より荻原理事長を迎えて小諸市原田別館で北佐久支会を開催した際(既報)の記念写真が寄せられた。今回は先輩有力会員に加え若い会員が大勢出席され千曲会益々発展の意を強うした。(大山融)



オルガン
ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社長 増島芳美

遂に完成 乞購入申込

針塚長太郎先生一その伝記と追想記

刷上り 300頁 追想記100余名執筆 実費頒価 1部 1000円

「針塚長太郎先生一その伝記と追想記」遂に完成しました。これは、ひとり一世の師表針塚先生を伝えるのみでなく、母校のほこるべき歴史を伝えるものです。潑刺たる息吹が一卷をおおっています。母校が新しい時代を迎えようとするとき、とくに若い同窓生の愛読をおすすめいたします。

(千曲会振替口座東京43341番を御利用下さい)

信州大学繊維学部千曲会館内
針塚先生追想録刊行委員会

母 校 ニ ュ ー ス

学 内 人 事

○12月10日付高木春郎助教授(繊維機械学科)、北条舒正助教授(繊維工業化学科)、一志淑夫助教授(繊維機械学科)は文部大臣発令により信州大学教授に昇任された。

○1月1日付町田助教授(繊維農学科)は信州大学繊維学部付属農場長に併任された。

火災一周年の行事について

1月26日火災一周年にあたり次の行事を催した。

- 1, 防火設備の点検
- 2, 防災標語入選作選発表
- 3, 防火研究討論会
- 4, 学生職員防火討論会

学生側・自治会寮の役員, クラス役員
職員側・防災委員, 補導委員, 助言委員

○繊維化学工学科の新設

繊維化学工学科の新設について12月30日付閣議を通過し昭和38年度国家予算に組み入れられたので38年度学生募集要項を追補した。

繊維化学工学科は合成繊維工業の急激な発展に即応して新設されるものであるが合成繊維工業は石油化学など原料化学工業に左右され、総合化学工学に成長しつつあるにかんがみ、一般化学工学の基礎に重点をおき、紡糸、成型ならびに反応工学などに特徴をもたせる。化学反応を工業化する装置学的な研究および教育をおこなうものである。化学工学技術者は日本においては最も不足している技術者である。

本 会 記 事

動 静 部 委 員 会 開 催

12月24日動静部新役員による委員会を開催した。出席者は関博夫理事、遠藤恒久理事および顧問格の坂口育三、並に田中茂光、押金健吾、美齊津利正、小笠原真次、野沢潤子、神宮好子の各委員であった。協議事項は支会連絡事務所に支会員の動静報告の依頼は従来通り実施すること。クラス毎に動静連絡員をきめ報告を依頼することについては次回において尚協議する。動静部としては新しい会員名簿をいつても発行出来るように正確な動静の把握に務めること。

理 事 変 更 登 記 完 了

11月23日開催の第23回定期総会において新に選任された理事25名の法人理事変更登記は1月30日付完了した。

本 会 評 議 員 決 定

第23回定期総会において評議員の選任は理事会に委任されたので12月15日開催理事会で次のとおり131名の役員に評議員をお願いすることになった。

(○印は支会長)

社団法人千曲会評議員

○池田正五郎 ○大沢 宝市 ○大山 融
○和田 敦 ○武田 一好 安川 寛
○向井 政弥 奥村 忠治 ○野沢司馬作
山本友之丞 清 水良一 阿部 丈夫
○栗原 章 宮前 邦雄 山崎 寿
○原田 種亀 山本岩三郎 母袋 良平
○船後 勇平 ○秋山 利夫 茅野 功
○日崎 武美 ○鶴田 定平 北条
○高橋 一 久保田不二夫 五郎 右門

中島 真 手塚 政吾 安井 健一
水口 米雄 林 清市 星田 肇
○浅野 清志 松下 紀男 中尾 七郎
市瀬 武寿 ○石坂虎治郎 一之瀬匡興
戸倉惣兵衛 ○磯部 英一 土屋 幾雄
佐藤 国一 ○小林 清志 美齊津利正
○鈴木 正悟 ○大塚 重蔵 篠原 昭
○村田 一由 鈴木 玄九 小山 定
内川 勇 ○黒岩 覚 佐藤 雅久
○工藤 見吉 ○山田 良人 伊藤 常治
○窪田 盛 ○小山 祖光 池田 忠夫
○深迫 明 宇根山哲夫 今井甲子男
○中島 茂 多川 澄平 丸田 巖
○中山 吉二 若林新一郎 熊田喜代志
小山 長雄 荒木 慎蔵 萩原 秀治
竹田 寛 上石陸二郎 坂口 育三
田中 一行 中島 暹 柳沢千代茂
古平 福紀 ○江野村一雄 松本 昇
桜井 善雄 宮下 力 永井 正彦
押金 健吾 佐藤 一 関田 章
小山 清 浅治製襪男 金子 隆一
土屋 孝 木下 重政 三石 賢
黒沢製襪彦 武井 和夫 阿久津伊平
岩本 賢治 川合 久午 小笠原真次
三谷 勝 青木 実造 矢彦沢清充
唐木田 内藤 邦雄 武田 兵助
藤五郎 桜井 隆夫 戸田 正行
○有賀 康人 ○篠田 正信 田中 茂光
○新野 武雄 ○伊藤 二男 岡田 純
○森 剛夫 ○川久 保元 柳沢 幸男
松永 省治 藤井富美男 藤形 謹繁
若林 寅雄 宇治 義春 橋本久之助
○荒井 猛 高品喜市郎 保科 孝
土屋茂一郎 永井 千治 石川 光也
○小山 俊吾 今吉 築郎
○小松 忠幸 飯島 貞雄

伊藤武男先生退職記念募金について

昨夏信州大学長を任期満了退官された伊藤武男先生の退職記念資金募集については会報正月号(No.128号)に登載以来会員のご協力を頂き有難くお礼申し上げます。多年母校繊維学部長としてその発展にご尽力をいただいた先生のご恩に感じ、下記により奮ってお申込みいただきますようお願いいたします。

記

期 限 昭和38年3月末
応募金額 1口 300円 口数はご随意
送り先 信大繊維学部 千曲会内 伊藤先生退職記念会


為 替 の ご 用 は

は や く て た し か な

富 士 を ご 利 用 下 さ い

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
口座長野3523が一番ご便利です


上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店



皆 様 の 百 貨 店

上 田 ・ 中 央

 8674のり

日本工業規格表示許可工場

日本石綿紡織株式会社

本 社 長 野 市 三 輪 本 郷
T E L (2)6275(3)0093

母校火災復興資金拠出申込者氏名 (○印完納)

宮城支会 2,000円 ○倉沢恒夫(蚕21)
山形支会 3,000円 ○細田増郎(糸30)
2,000円 ○丸川一太郎(蚕9)
北奥支会 5,000円 ○小原二一(化4)
2,000円 ○山路広次(蚕別4) ○佐藤幸夫(学糸6)
○西尾泰徳(学蚕6) ○矢川寛(蚕29) ○飯塚
安治(蚕17) ○上木忠士(糸22) ○堀内享(学
蚕5)
福島支会
2,000円 ○井上貞二(蚕28) ○三瓶常四郎(蚕18) ○蛭
田修三(糸12) ○池田三之助(蚕16) ○長尾泰
次(蚕31) ○柳沢晋(蚕37) ○中島春夫(蚕38)
○相野田文雄(糸31) ○大久保孝一(蚕29)
1,000円 ○武田広(学蚕5) ○西沢尉(糸別1)
千葉支会 1,000円 ○大場孝(学蚕3)
東京支会 4,000円 石橋渡(糸30)
3,000円 ○早乙女徳蔵(蚕17)
2,000円 ○万石安太郎(蚕9)
1,000円 ○蒲生卓磨(学蚕5) ○高橋威(蚕35) ○望月
政明(蚕31) ○宮坂啓象(学紡5) ○小沢賢治
(蚕30) ○六川三恵子(学化8) ○黒岩君雄(紡
14) ○原博昭(学化6)
神奈川支会 5,000円 ○吉田義夫(紡13)
2,000円 ○田島政三(蚕31) ○奥山健二(化5)
1,000円 ○榎田武(糸37) ○大井忠幸(紡24) ○土屋成令
(学紡8) ○村野美(学紡9)
茨城支会 3,000円 ○米川富秀(蚕33)
1,000円 ○本谷良雄(蚕7) ○小泉真(糸37) ○土屋六郎
(糸38) ○細川整(糸38) ○藤田昌利(学糸2)
○尾崎正和(学蚕6)
700円 ○中山鑑(蚕3)
埼玉支会
2,000円 ○山浦忠(蚕23)
1,000円 ○塚本優(蚕21)
栃木支会 5,000円 ○門田勇(紡15)
群馬支会 2,000円 ○小池渥(学蚕1)
富山支会
2,000円 ○井上晴普(紡19) ○栗本正知(化3) ○柿原
修(蚕31) ○清水伝(蚕23)
1,000円 ○杉本和夫(紡27) ○市川行洋(学紡6) ○阿
部勝昭(学蚕16) ○黒川貞澄(学紡2) ○金子
行徳(学紡6)
越佐支会 1,000円 ○宮川英一(学蚕3)
南佐久支会 3,000円 ○木内茂雄(蚕16)
2,000円 ○西沢芳智(農2)
1,000円 ○岩田静男(学蚕2)
上小支会
5,000円 田口玲(紡19) ○茅野功(蚕19)
3,000円 ○箱山住夫(蚕26) ○小林清丸(旧職) ○太田
元(蚕15) ○若林為夫(蚕18)
2,000円 ○母袋悦男(糸37) ○飯島祐介(学蚕2) ○二
宮新二郎(紡22) ○関幸雄(蚕37) ○山辺好徳
(学蚕5) ○古越光明(蚕14) ○坂井賢(蚕36)
1,000円 長谷川濃(学紡8) ○西沢茂久(紡専) ○伊部
ミサオ(教6) ○小林テル子(教16) ○武井伍
一(学糸3) ○金井節子(旧教) ○飯塚光子(旧
教) ○小松敬治(蚕38) ○金沢勇(蚕17) ○平
尾孝平(蚕19) ○河合良一(学化4) ○丸田昭
男(蚕別3) ○香山章(学蚕7) ○細川三郎(糸
2) ○上原芳友(蚕別5)
北信支会 1,000円 ○川合久午(紡19)
飯高支会 1,000円 ○鷹野三男人(農4)
安筑支会
4,000円 松岡 潔(蚕14)
1,000円 ○山崎修也(糸14)

諏訪支会

5,000円 ○山浦克巳(糸23)
2,000円 ○林 謹一(糸18)
1,000円 ○平林 潔(学糸3)

岐阜支会

5,000円 ○上田和男(紡6)
3,000円 ○堀口友治(蚕25)
2,000円 ○島 博明(紡32)

静岡支会

2,000円 ○清水基弘(化4) ○戸倉惣兵衛(蚕1)
○小出直人(化2) ○坂口文吾(蚕34)
1,000円 ○宮沢津多登(蚕36) ○西村利三郎(学蚕3)
○北村宏(学化2) ○滝沢孝正(学化5)

愛知支会

4,000円 ○今吉策郎(紡5)
3,000円 ○中村登一郎(紡19) ○土屋澄(紡20) ○小山
田俊(化3)
2,000円 ○松田得治(蚕28) ○田島三喜夫(紡22) ○中
川正(紡15) ○土方勝義(化6) ○稲垣厚(化
6)
1,000円 ○小野裕可(学化10) ○田中治雄(学蚕2) ○
武井安夫(学蚕6) ○坪内孝夫(学農10) ○小
林正治(学蚕3) ○倉島秀雄(学蚕4) ○山本
正(糸31) ○水野幸夫(学紡1) ○神林正幸(学
紡1) ○浦山清(化8) ○福島亮一(学化1)
○山田渡(農3)

京滋支会

5,000円 ○田附由次郎(蚕5) ○飯島貞雄(紡1)
3,000円 ○松沢秀二(学化2)

三丹支会

2,000円 ○森 力雄(糸27)
1,000円 ○若林忠之(学化10)

三重支会

3,000円 ○久保田哲二郎(紡20)
2,000円 ○山下昇(蚕30) ○木村敏(化6) ○伊藤文郎
(紡22) ○高城克二(紡29) ○小相沢榮夫(紡
23) ○大井正夫(糸20)

近畿支会

3,000円 ○高田正気(糸25)
1,000円 ○滝沢啓造(学紡5) ○関口貞雄(学化2)

兵庫支会

8,000円 ○安井義忠(糸6)
4,000円 ○佐藤嵩(紡20)
3,000円 ○山崎勝弘(紡27)
1,000円 伊倉和夫(化5)

山陽支会

3,000円 那須野昭文(化7)
2,000円 ○小泉幸道(学紡10) ○塩川完爾(学化10) ○
西川満佳(学化10)
1,000円 ○大森武(農2) ○松田昭(学糸7) ○安倍正
純(学糸9) ○平波弘(学化8)

高知支会

1,000円 ○窪田盛(蚕7) ○田中亮(蚕17) ○柄沢昌一
(紡28) ○児平文雄(化6) ○湯原清(学糸2)
○中山剛(学紡7) ○安岡美登(糸27) ○都築
南海天(糸36)

徳島支会

2,000円 ○石立輝人(紡18)

愛媛支会

2,000円 ○梶田広貞(蚕7) ○薬師神弁太郎(糸22)
北九州支会 3,000円 ○高尾三代治(糸27)

2,000円 ○高橋一郎(糸27) ○安田圭二郎(農1)
1,000円 ○小山祖光(糸16) ○県和一(学蚕7) ○関弥
三(学糸4) ○小川保治(蚕別4) ○西川晋(蚕
23) ○川谷寿一郎(蚕23)

熊本支会

2,000円 ○飯島千春 ○田爪正記(糸30)

小 計 182人 335,700円
累 計 1,246人 2,867,000円

火災復興資金募集

母校火災復興資金募集については各位の多大なご協力によって1月末日現在申込人員1,246人、申込額2,867,000円となり目標募金額の50%になりました。会員各位の母校愛溢れる熱意に対し衷心より感謝申し上げます。未だ申し込みをされない方におかれましても募金要項ご賛同の上格別のご協力賜りますようお願い申し上げます。

募 金 要 項

募 金 目 標 額 5,800,000円
復興資金として 5,000,000円
母校へ提供する金額
拠 出 額 1口金1,000円 1口以上
申 込 期 限 昭和38年6月末

千 曲 会 員 各 位

母校火災復興資金募集実行委員長

巢 山 喜 吉

社団法人千曲会理事長

荻 原 清 治

会 員 動 静

川合 久午 紡19 北 信 長野県社会部労政課長(長野市県町)
古田 力 糸24 山 陰 片倉工業(株)松江工場長(島根県松江市東朝日町151)
相野田文雄 糸31 埼 玉 //石原工場(埼玉県熊谷市石原2232)
雨宮 金雄 蚕17 東 京 東京都中野福祉事務所長(東京都中野区野方町2ノ1656)
鈴木 竹登 学糸3 越 佐 新潟県立直江津高校定時制中心校(直江津市大字八幡)
芦谷 鉄郎 蚕33後 埼 玉 郡是製糸(株)鴻巣工場飯能出張所(埼玉県飯能市原町182)
井本 俊一 蚕30 山 陰 郡是製糸(株)今市工場(島根県出雲市塩谷町)
獅子柴啓山 学蚕9 安 筑 昭和倉庫松本支店(松本市芳川区)
松本 守人 蚕別5 北 信 長野スポーツ自動車教習所(長野市)
浦野 正典 農2 安 筑 松本公共職業安定所(住)松本市宮瀧 678
宮島 庄平 蚕7 北九州 佐賀県伊万里市二里町作井手
小林 久子 糸別4 愛 知 (旧姓棚沢)愛知県新城市屋敷170 松本一夫方
水野 伸夫 学化8 近 畿 日本合成化学(株)(住)枚方市香里ヶ丘8丁目3748-1
河辺 謙 紡30 愛 媛 日本合成化学香里寮
菊川 武 学化3 愛 媛 東洋レーヨン愛媛工場紡績課
春原 昌行 学紡4 愛 知 愛媛県伊予郡松前町
奈須野 正 農2 北 信 東洋レーヨン愛媛工場テロン課
村松 祐七 糸29 宮 城 愛知県常滑市榎戸平芝8愛知紡績社宅S15号
(住)長野市本郷842の5(勤前の通り)
(旧姓伊藤)(住)宮城県登米郡東和町錦織

前田 雅弘 蚕13 山 形 山形県農業信用基金協会(山形市七日町字東前)電8325
杉藤 岑夫 学紡9 近 畿 大阪府箕面市西小路543 蝶理(株)箕面寮(電3290)
島 博明 紡28 岐 阜 岐阜市栄町3504の2
武田 広 学蚕5 福 島 (旧姓茅野)昭栄製糸(株)福島工場(福島市太田町154)
依田 弘夫 紡24 福 島 パラマウントガラス工業(株)福島県郡山市
西本 朝平 蚕15 山 陽 岡山県津山市小田中西松原2158
井上 大 紡21 愛 知 大日本紡績(株)名古屋営業所名古屋市中区広小路通り7ノ11日本火災保険ビル内
若林 久 学糸10 三 重 三重県伊勢市八日市場町214
山本 繁 学糸9 愛 知 名古屋市中川区柳堀町2の45
竹内 義広 学糸3 東 京 (住)東京都杉並区堀ノ内1の19
原 亘 糸学4 諏 訪 (旧姓市村)大和電材工業株式会社(下諏訪町)
峰村 稔 糸学1 東 京 (住)東京都北区赤羽台町2住宅公園27の102
小口 英一 糸12 諏 訪 (住)岡谷市市竜町2の3
青木 久夫 糸学5 諏 訪 (住)岡谷市市竜町1の2の24
棚沢 梯三 糸38 上 小 上田市新参町5428
北沢 正巳 糸38 上 小 上田市新参町5428
香山 至郎 糸学4 更 埴 上山田中学校(更埴郡上山田町)
須永 茂 糸18 竜 川 伊那市中央区4759
林 秀門 糸19 京 滋 京都市左京区下鴨芝本町53の11
土王 珀二 糸24 群 馬 片倉工業(株)富岡工場(群馬県富岡市富岡1)
岩切 作次 糸22 鹿 児 島 岩切産業有限会社(鹿児島県大崎町菱田)
金子 保夫 糸36 石 川 金沢市董町17
武井 伍一 学糸3 上 小 武井樹脂製作所(上田市)

皆 様 の ご 相 談 相 手

三十二銀行

編 集 室 よ り

今冬は寒気厳しく各地に雪降り、殊に新潟北陸等何十年振りの豪雪で被害甚しく、ご難儀のことと存じこの地方の会員各位に心からお見舞申し上げます。

2月には南の方では梅花が咲き出すが信濃路はここ当分雪と寒さが続きそうだが学園は卒業を前にその仕上げに多忙な毎日である。会員のご健勝をお祈りします。

編集委員 小林 尚一、香山 清和、大屋 正尚
古平 福紀、小山 定、窪田 衛二、大工原 建
滝沢 達夫、小林 勝、白井 要範